

■「効果の見える治水事業」

体験学習を中心とした防災教育(砂防学習会)の取り組み



愛媛県土木部河川港湾局砂防課長 **あおの まさと 青野 正人**

毎年、梅雨や台風の季節が来ると、崖崩れなどの土砂災害の発生が懸念されます。土砂災害危険箇所が15,190箇所（全国14位）と非常に多い本県では、ハード整備の促進とともに「防災・減災」を図るためのソフト対策が必要不可欠であると考えています。その一つとして、平成16年度から県砂防ボランティア協会と連携し、小・中学校の子供たち及び地域住民の方々を対象に土砂災害防止の普及啓発を図ることを目的とした砂防学習会を実施しています。

従来の砂防学習会は、土砂災害の種類や特徴、さらには、自分の命を守る方法などの講義を映像やスライドを用いた座学中心で実施していましたが、内容が難しいことから途中で興味をなくしてしまう児童・生徒が多数いました。

そこで、子供たちの興味を引き、記憶に残る「砂防学習会」とするため、平成23年度から国が所有する降雨体験装置や小型模型実験装置を活用した「体験中心の砂防学習会」を開催しました。

降雨体験装置では、時間雨量10mmから日本一と言われている180mmの雨量を段階的に体験したり、がけ崩れの模型実験では、さまざまな対策工法などを実際に手で触りながら学習することができます。

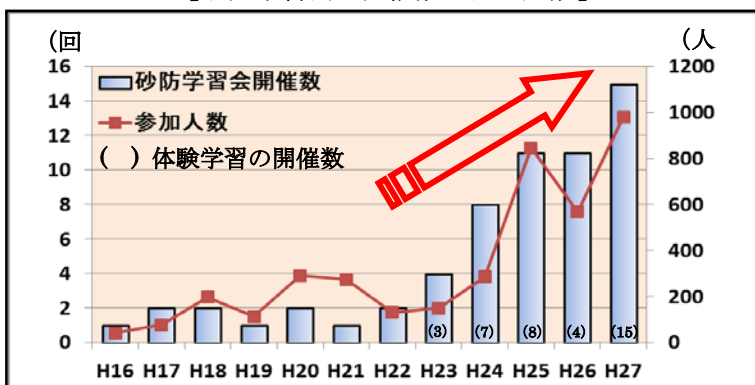
体験学習を積極的に取り入れ始めた平成23年度以降、学校からの開催希望が増加し始め、平成27年度は、これまでで最多となる15校で砂防学習会を実施することができました。

この砂防学習会が土砂災害に対する関心を持つきっかけになればと考えており、今後も、興味深く、記憶に残る学習内容となるよう取り組んでいきたいと考えています。

体験装置や小型模型装置による砂防学習会（体験中心）



【砂防学習会の開催数と参加人数】



【小学5年生の感想文】

この間はありがとうございました。
命に関わりのある大事なことを学ぶことができました。
特に心に残ったことは、体験をしたことです。
180mmの雨を体験したことか、なにか初めて体験しました。
180mmの雨と風があると大変なことになるんだろうなと想像し、いかに雨の体験をしました。3Dモデルをかけた画像ではとてもわかりました。木がとんできたりしたので本当にこんなことがあるんだと思いました。
わたしのお父さんは消防士でいろいろなことを話してくれたり、いつにけるかを教えてもらったりするけど、大きくなると一人ぐらしをするときには多分行動できないと思うので、学べてよかったです。